

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 12月

事業所名 ぐりーん

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		その都度に応じて部屋を区切り過ごしやすい環境を設定している その日の人数に合わせた部屋の広さや、音の騒がしさなどを考えて環境設定をしています。 必要に応じて部屋を分けてスペースの確保をしている。 スペースが足りない時はカフェやハウスの利用もしている	今後も利用者1人1人が過ごしやすい環境を見つけて設定していきます。
	2 職員の配置数は適切である	83%	16.70%	必要に応じた人数で支援している スタッフ同士が全体を意識して見るようにしています。 足りない時は、活動内容を変更したり、ヘルプに入れる他スタッフにお願いをした方がいいと思う	職員がそれぞれ声を掛け合って支援していきます。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		日々の打ち合わせ振り返りを行い支援の見直しを行なっている 支援前後に時間を設けて行うようにしています。 毎日支援の振り返りや次回どうするかの話し合いを行いPDCAに基づき行っている。	勤務時間の異なる場合によってその日に振り返りが出来ないことがあるが別日の設定や支援記録等で振り返り確認を行っていきます。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		見やすくする工夫などは必要だと思います	公表はしていますが周知が低いのではと感じる部分があるのでもっと知ってもらうようお知らせしていきます。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60%	40%		評価結果を確認し、改善しているかの見直しも行っていきます。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		後輩職員が研修への参加ができるよう調整している 次初めの会議でその月の勉強会の日程を決めて行っています。 定期的に職員間での勉強会を行ったり、半田市主催の研修を受けてチームでの支援の力向上を行って行っています。 法人として研修(対面、オンライン含め)行っている	研修で学んだことが日々の支援で活かされるように、報告書を確認して支援の振り返りを行って行きます。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		本人の特性や気持ちを確認し、保護者の意向を聞きながら計画を作成している 保護者や子ども自身に話を聞いたことも含めて考えています。 アセスメントに基づき支援の方法や計画がたてられている。また、保護者に支援内容の説明を行い保護者からの様子や話も聞いている 初回アセスメントをその方に合わせてとり、支援に生かせるようにしている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		使用しているが、多くの職員が使えるように学ぶ場をもっと設定していきたい 職員同士で共通のアセスメントツールを共有しています。 アセスメントのために共通で使っているツールがある。	共通したツールを使っているが、今後どの職員も実施できるよう、使用方法の確認、注目点を確認しながら使用していきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		職員と話あいながら立案しているが今後ももっと沢山の意見が出るよう話をふり進めていきたい 適宜話し合いを行なっています。 月初めに来月支援として、何をするか話し合い行っている。	

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		利用者の様子をみながら細かいプログラムを変えたり休日の日は普段と異なる活動を設定している 様々なところから調べて取り組みに入れています。 ルーティンも大切ですが、事前予告等見通しを持てるように工夫しプログラムの変更もしています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83%	17%	休日、長期休暇など長い時間になると時間設定が曖昧になることがある。話し合いをして、設定を考えている 学習量や内容、取り組み方を工夫している	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%		個々に必要なスキルとコミュニケーションの部分がそれぞれ発達するよう計画に組み込んでいる	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%	一人一人の支援内容も話し合っています。 ほぼ毎回できているが、一部できていない日もある。スタッフ同士で声を掛け合い疎かにならないようにしている。 朝からの支援の際に集まって打ち合わせをすることが難しいこともあるが、紙面(支援記録)に記入しておきわかりやすいようにしている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50%	50%	業務の時間等により振り返りが行いきにくい場合があるが、できる職員で行ったり、個々で記録の読み返したりする等で補っていく必要がある 送迎などで職員全員で打ち合わせが難しくても、先に行いその後情報共有するなどしています。 ほぼ毎回できるがスタッフの勤務の都合などでできない日もある。できなかった日は別日に設定するようにしている。 打ち合わせ、振り返りの時間にいないこともあるため別のときに伝えたり、支援記録に書き残すようにしている パートで正職員さんより早く勤務が終わるので気付いた事があれば、伝えるようにしている	勤務時間の異なる場合によってその日に振り返りが出来ないことがあるが別日の設定や支援記録等で振り返り確認を行っていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		記録に貼ってある計画を確認して書くようにしている。	支援の振り返りで共通認識を持てるようにしながら記録も記入しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		学習支援はモニタリングの際に再評価をして客観的に見えるようにしている。 気づいた事は必ず伝えるようにしている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100%			
	関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		児発管又は専門職が必要に合わせて参加している
21		学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		必要に応じて連絡を行なっている 年間計画などでわからないことは直接学校に電話して聞くなどしています。	
22		医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	60%	40%	具体的な話などで一部できていない部分もある。 主治医からの意見書はあり。 家族との情報共有をしっかりとるようにして	看護師がいるので発作や服薬をしている方たちは医師とも連絡をして様子を確認していく。
23		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	80%	20%	支援実施前に、どのような事をしていたか話を聞くようにしている。 小1の受け入れがない。 必要に合わせて新規ケースの受け入れの際の情報共有共有はしている。	
24		学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%		相談員、保護者にはお伝えし、必要に応じて移行する事業所に連絡している	
25		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%		研修等で連携を行なっている	
26		放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		100%		現在はコロナウイルス感染拡大防止のためもあり交流する機会は作っていないが、今後緩和されたら他事業所とも活動していきたいと考えています。

	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	60%	40%	法人からは参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		直接会えない方は都合の良い時間に電話等で連絡をしている、お迎え時にその日の子供の状況を伝えたり、気になっていることなどを話しています。送り迎えなどの際に話し合いをおこなっているお迎えの時に伝えたり、連絡帳に記入したりしている。	今後もより本人の気持ちを探りながら保護者へ伝え、同じ方向でサポートができるよう連絡を密にとっていきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	60%	昨年度は開催した	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		わかりやすく言葉を噛み砕いて説明することもあります。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		送迎の際や連絡帳へ記入して頂くようにしている。時間をとって相談に応じることもある。なるべくその日のうちに話ができるようにしている。保護者の話を聞いたら、内容によっては1人で判断せず、他スタッフに伝え、どう助言支援したらいいのか話し合い、適任者が保護者に伝えるようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	80%	20%	保護者同士の話す時間を作る等はできていないので開催していきたい。現在コロナの影響もありできていない現状。今後考えながら行う。	コロナウイルスの状況をみて保護者の会を設定していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		予定表などをメールで送信するとともに、玄関口に掲載しています。	
	35	個人情報に十分注意している	100%			誤配布や誤送信などにならないよう二重チェックをしています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		場合によっては本人と話した後保護者とお話したりぐりーんでの様子を伝えて本人の気持ちが伝わるようにしている、子どもたちとはホワイトボードに書いたり、カード選択などを行なっています。その方にあったコミュニケーションツールを評価し準備をしている	本人の気持ちがきちんと伝わるよう、職員も配慮しながら伝える場所、伝え方を考え設定しています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	40%	60%	就労のカフェがあるため地域の人に来てくれ	同施設内でカフェを運営している
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%		策定はしているが、保護者への周知は低い	保護者へ伝えるよう、メールやお知らせをしています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		定期的に訓練を行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		月に一回の会議で虐待の項目に当てはまっていないかを職員同士で話し合っています。年に1回は必ず全職員が受けている	定期的に会議を開催しているが、必要に応じて虐待の行動になっていないか見直しをしています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%		計画に記載してあっても常に注意を払って虐待にならないよう支援を行なっている	常に虐待の可能性を疑いながら支援を行うことで虐待の芽をつんでより良い支援を行っていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	60%	40%	医師の指示書は無いが、アレルギーは、確認している。親の聞き取りしか行っていない指示書等がある方がいれば確認して対応していくべき指示書はもらっていないが、家族との情報共有はしている。	アレルギーは保護者の聞き取りで終わっているが今後重度のアレルギーの方が利用される場合、食事の提供方法等の確認の書類を作成していく必要がある。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			ヒヤリハットがたくさんで、気づきが多い事業所になるよう、職員と意見交換していきます。